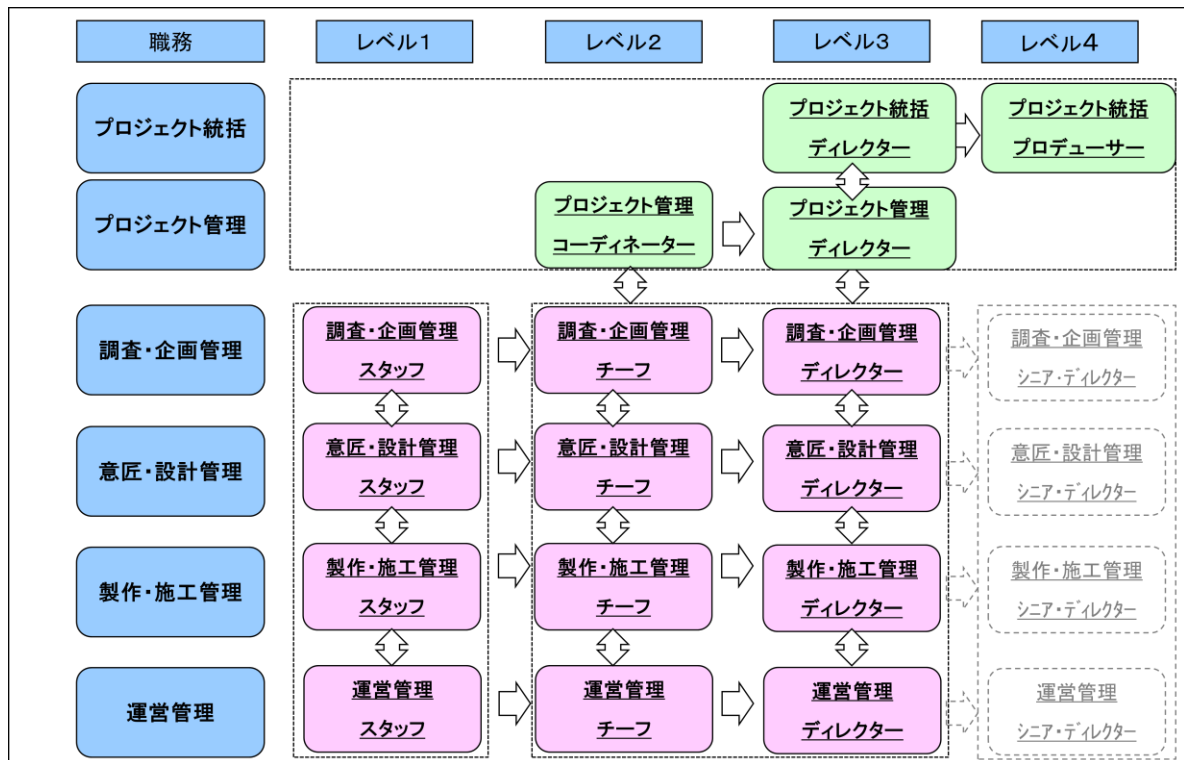


職業能力評価基準（ディスプレイ業）におけるレベル区分の目安

レベル	レベル区分の目安	(参考)呼称イメージ
レベル4	● ディスプレイ業全体についての豊富な知識・技能・経験を有し、リーダーシップを発揮して業務全体を統括することで、会社の利益拡大や競争力強化に貢献できる能力水準	・ プロデューサー
レベル3	● ディスプレイ業についての高度な知識・技能・経験を有し、問題解決しながら担当業務を効果的に統括することで、会社の利益創出に貢献できる能力水準	・ ディレクター
レベル2	● ディスプレイ業についての幅広い知識・技能を身につけ、担当業務を独力で遂行できる能力水準	・ コーディネーター ・ チーフ
レベル1	● ディスプレイ業についての基本的な知識・技能を身につけ、上司の指示・助言を踏まえて日常業務を遂行できる能力水準	・ スタッフ

ディスプレイ業におけるキャリア形成の例

- 入職後、社内の業務全体について概括的な知識を身につけたうえで、まずは特定の職種に軸足を置いて経験を積むのが一般的である。
- その後は、様々な仕事を経験して技能の幅を広げながらキャリアアップするケースが一般的だが、「意匠・設計管理」や「製作・施工管理」など特定分野に特化し、熟練技能を蓄積しながらキャリアアップするケースもある。
- なお、会社の業態によって社内には存在する職種の範囲は異なる(例:「意匠・設計管理」や「製作・施工管理」のみに特化した企業など)。また、小規模企業の場合、複数の職種を一人の担当者が兼務するケースが多い。



(注) 企業によっては、特定分野に関する極めて高度な専門知識・技能を有するレベル4相当の社員が存在する場合があります。

(「シニア・ディレクター」は呼称の一例)